

コンセプト/考え方

- 多世代・多用途：お年寄りから子どもまで、様々な年代層が多目的に使える公園
まちづくりセンターと一体となった賑わい・交流の場の創出（C C A C構想の推進）
- スポーツ、健康、ウェルネス：身体を動かしアクティブに活動する場としての公園
- リラックス、居心地の良さ、居場所：ゆったりのんびりと時間を過ごすためにやってくる公園
- 発見、出会い、交流、体験：新しいものが得られる/見つかる公園
- 防災・環境：安心・安全な住環境に資する防災・環境配慮機能を備えた公園

空間の使い方の検討に際してのキーポイント

■空間設計

- 公園全体に一体感をもたせ、景色を途切れさせない
- 見渡しがよく、来場者がお互いを感じられることを意識
- 高低差をうまくいかす。使い切れていないスペースを良い余白や、機能を与えることなど検討

■施設機能

- 雨除け、日除け、子どもが自由に安心して遊べる場所の確保
- 子どものボール遊びから練習・試合まで、競技者レベルや目的に合わせた運動施設の整備
- 多世代が交流できる場の創出として、荒見苑の活用について検討
- “まちのがっこう”などの地域主体活動が活発に行える環境づくり（広場空間、電気・給排水設備）
- 多様な使い方が出来るように作り込み過ぎない計画とする。その中で、機能的に整備が必要になる部分を議論し、場所を設定する。（ハーフビルドの発想を導入）